

建築施工（建築類型）

教 科	工業（建築インテリア）	単位数	2	学科・学年	建築インテリア科 3年（選択）
使用教科書	建築施工（実教出版）			副教材等	担当教員が配布するプリント

「建築施工」はこんな科目です

わが国の建築生産の過程、建築施工の内容を明らかにし、施工関係者、企業の形態と特質、さらに建築施工の方式と建築業務のあらましについて学ぶ。

「建築施工」の学習の特徴

建築施工管理技術者（現場監督）として、将来現場へ出て困らないように工事についての知識（仮設工事、土木工事、主体工事等）を学び、身につけられるようにする。

「建築施工」で大切なこと（留意点）

建築生産における技術活動の最終段階として、設計図書に示された建築物を合理的に、安全に、かつ経済的に実現するために各工事の過程と、その作業内容及び関連する業務について学習し理解を深める。

将来建築現場で困らないように、建築工事の概要を理解しておくこと。

1. 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。）

	月	学 習 内 容（单元名）	学 習 の ね ら い
1 学 期	4	第1章 建築施工のあらまし	<ul style="list-style-type: none"> ・建築生産に関係する建築主・設計者・工事監理の仕事内容を学習する。 ・施工者の仕事の役割を明確に把握する。 ・各工事内容の概要を理解し、それら各工事が建築施工全体の中で、いかなる役割を果たしているかを理解する。
	5	1.建築施工にたずさわる人々 〈中間考査〉	
	6	2.建築施工の流れ	
	7	第2章 工事の準備 1.地盤と敷地の調査・確認 2. 仮設工事 第3章 地面から下の工事 1.土工事および杭・地業工事の種類と流れ 2.土工事・山留め 3.杭工事 4.地業工事 〈期末考査〉	<ul style="list-style-type: none"> ・地盤と敷地の調査、解体工事、仮設工事について工事全体の中での役割、工程を把握し、どのような人々が作業に関わって工事を進行させていくのかを学習する。 ・仮設工事の役割を知り、計画等の立て方を学習する。 ・建築物の基礎および地下部分を構築する際に必要となる土工事・地業工事の概要を把握する。
2 学 期	9	第4章 木構造の工事 〈中間考査〉	<ul style="list-style-type: none"> ・木構造の基礎の種類について学習する。 ・在来工法の流れと施工方法について学習する。 ・躯体工事の概要について理解し、外壁、洋室、和室の仕上げの方法について学習する。 ・型枠、鉄筋工事の施工方法について学習する。 ・基礎工事・躯体工事の流れ、施工方法について理解する。 ・屋根工事の種類と方法、屋根断熱の概要と樋の計画について学習する。 ・各種外装材の種類と施工方法および断熱工事の概
	10	1.基礎 2.在来工法の骨組	
	11	3.枠組壁工法の躯体 4.外部仕上げ	
	12	5.内部仕上げ	
		第5章 鉄筋コンクリート構造の工事 1.鉄筋コンクリート工事 2.基礎 3.躯体 4.外部仕上げ 5.内部仕上げ 〈期末考査〉	

		第6章 鋼構造の工事 1.基礎 2.骨組（柱と梁） 3.スラブ	要について学習する。 ・鋼構造の基礎について学習する。 ・部材の製作、建方、現場接合について理解し、鉄筋コンクリートとALCパネルのスラブについて学習する。
3 学 期	1 2	4.耐火被覆 5.仕上げ <学年末考査>	・耐火被覆の工法について理解し、鋼構造の工事における屋根、外壁、外部開口部の施工方法について学習する。

2. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	建築施工に関する基礎的な知識と技術について関心を持ち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的、実践的な態度を身に付けてようとしている。	・授業準備 ・授業態度 ・出席状況 ・課題提出
思考・判断・表現	建築施工に関する基礎的な知識と技術をもとに実際の建築生産技術について考え、また諸問題を発見し、その解決を目指して自ら思考を深め、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付け、表現することができる。	・発表内容 ・テスト ・授業ノート記述
技能	建築施工に関する基礎的な知識や技術を習得するとともに、実際の建築現場を観察し、実験・実習において、実務的な技能を活用することができる。	・授業ノート記述 ・テスト内容
知識・理解	建築工事に関する各種の工法、工事管理、積算など建築施工に関する基礎的な知識と技術を身につけ、建築生産技術の意義や役割を理解する。	・テスト ・発言内容

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・授業態度
- ・ノートやプリントのまとめ方
- ・定期考査や小テストの結果
- ・課題等の提出状況、出来具合

また、1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

3. 特に強調しておきたい点（留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。）

普段の授業を大切に考え真剣に取り組む、積極的に発言し、プリントやノート・課題等をしっかりと見やすくまとめて必ず提出し、期限を守る。また、定期考査や小テストにも意欲的に取り組み、自分の能力を最大限生かし切ること。